

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3090100078
法人名	有限会社 プロGRESS
事業所名	あい 楠見
訪問調査日	平成 22 年 3月 12日
評価確定日	平成 22 年 4月 13日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3090100078		
法人名	有限会社プログレス		
事業所名	あい楠見		
所在地	和歌山県和歌山市楠見中197-8 (電話)073-451-8787		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成22年3月12日	評価確定日	平成22年4月13日

【情報提供票より】(22年 3月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 6人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(平成22年 3月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	61 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	山田歯科、医療法人愛晋会 中江病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

複合施設「あい楠見」の建物の2階に上がって右手が高齢者専用住宅、左手がグループホームになっている。見晴らしの良い窓からは四季の自然が感じられ、玄関から続くダイニングとすぐそばの掘り炬燵のある和室では気の合った者同士がゆったりとくつろげるようになっている。今までの自分の家での暮らしに近い生活ができるよう取り組まれており、入浴の時間帯を夜に変更したところ、熟睡できるようになったなどの成果が表れている。関連法人の施設、病院とも連携が取れており医療面も安心できるように支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の後、大きな改善内容として、入居者が自宅で生活をしてきた日々の暮らしに最も近い形でホームで生活できるようにケアの内容を見直した点があげられる。入浴時間の夜間への変更や入居者と共に調理をする機会を設けたり、外出や外食の機会を増やすなどの改善がみられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は計画作成者が、それぞれの項目について職員から意見を聞きまとめている。全職員が全ての項目に関わったわけではないが、出来上がった評価は全職員が目を通している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は今年度中に実施する予定で準備を進めていたが、管理者の急な交代の為延期となり、まだ実施できていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からはホームの訪問時に意見を聞いている。出された意見は報告書を作成し、全職員が把握し、対応できるように努めている。ホームでのイベントなどには家族も招待し意見が聞けるよう努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	複合施設「あい楠見」として自治会に加入するなど、地域の一員として職員が地域の掃除に参加するなどしているが、まだ十分とは言い難い。自治会の会議もまだ開催されておらず具体的な活動内容も不明であるが、今後の働きかけに期待する。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛のある生活」という介護事業所全体の理念の他、「地域と共に歩み、私らしい生活を」というホーム独自の理念を作り上げ、日々のケアに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所内に掲示しており、スタッフ会議や毎月のケア会議でも確認し合い日々のケアに生かしている。理念を日々のケアの中で実践できるように、毎月の「目標」として重点的に取り組む内容を決めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「きしゅう君の家」としての登録を行い、地域の子どもたちを守る活動に参加している。複合施設「あい楠見」として自治会に加入し職員が地域の清掃活動に参加している。地域との交流については模索中である。		民生委員と連携を取っていききたいとの意向を持たれており、まずは運営推進会議を開催し参加してもらうことが望まれる。近くの小学校や自治会との関係もさらにすすめ、地域住民との交流の機会が深まることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員に聞き取りを行い計画作成者がまとめている。作成した自己評価は全職員が目を通している。外部評価を踏まえ、外出の機会を多くすることや、入居者と一緒に調理する取り組み、夜間の時間帯の入浴の実現など積極的な改善がみられている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目の会議をどのように開けばよいか分からず、取り組めなかった。計画作成者が他事業所の会議に参加させてもらうことで方向が決まり、年度内の開催を予定していたが、管理者の交代などもあり未実施の状態である。		市の介護保険担当者や地域包括支援センターの職員、地域の民生委員や老人会などへの積極的な働きかけを行い、会議が開催されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度上の事務手続きの際に、市の介護保険課へは毎月1回訪問して意見を聞くようにしている。地域包括支援センターの職員とは地域ケア会議で会うが、積極的な意見交換はされていない。		地域包括支援センターや市の介護保険課への今後の働きかけを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	変化があった時はたえず電話連絡を行い、日頃の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動などは家族の来訪時に口頭で報告している。複合施設全体で「楠見だより」を発行しており、入居者の写真も載せている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の毎月の訪問時に意見を聞くようにしている。家族からの意見は報告書を作成し、全職員が把握できるようにしている。夏祭りなどのイベントには家族も参加してくれるので、意見交換をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけ少なくなるようにしている。やむを得ず離職する場合は、職員から入居者に伝えてもらい、入居者の不安が少なくなるようにしている。離職した職員の訪問も行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連法人で年に2回開催される研修と複合施設内で毎月開催される研修に参加できるようにしている。ケアの現場では職員に合わせた指導を行っている。職員から研修の希望があれば、できるだけ参加できるように支援しており、研修の内容によっては業務扱いとしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地域密着型サービスケアネット和歌山」に加入しており、研修に参加したときに他事業所の職員と交流がある。同一建物内の他の介護サービスとの職員や関連法人内での交流はあるが、他の事業所との交流は少ない。		グループホームに限らず、小規模多機能型居宅介護など他の地域密着型サービスとの関係作りを構築し、職員相互の研修の機会が持てることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同一建物内にある認知症デイサービスの利用中に、ホームを訪問してもらったり、家族と一緒に短時間利用してもらうなど、ホームに慣れてもらってからサービスの利用を開始している。病院から退院した場合など、早期の受け入れを望む家族にもホームになじめることの大切さを説明し、理解してもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者を人生の先輩として尊重して接しており、昔からのことわざや格言を教えてもらったり、家族の心配ごとを聞いてもらうこともある。子育て等適切なアドバイスをもらうこともあり、入居者と職員は互いに支え合う関係作りがなされている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話の中で本人の希望を聞くようにし、できるだけその人らしく生活ができるよう支援している。本人の希望がない場合には家族から話を聞き、それまでの生活歴なども考慮しながら本人本位のケアができるように支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式によるアセスメントを用い、それぞれの入居者の担当職員とリーダー、家族、本人で意見を出し合い計画を作成している。計画はどの入居者にも当てはまる画一的なものではなく、一人ひとりに合った計画が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態が安定している時でも6ヶ月に1回は計画を見直すようにしている。状態が変わった時にはその都度計画の見直しを行い、現状に即した計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の医療機関の受診支援を行っている。複合施設「あい楠見」では地域の方の介護相談を行っている。また、施設は小学生の緊急避難場所「紀州君の家」に登録されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の意見を尊重している。受診は家族に依頼しているが、受診前に家族と話し合いホームでの暮らしぶりや健康状態などの情報を家族に提供している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病院や訪問看護ステーションなど関連法人の医療機関との連携が密接になされており、早期の段階から家族との話し合いがなされている。重度化した場合でも、望めば可能な限りホームでの生活が送れるような支援体制が構築されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけないような声かけを行い、排泄時や入浴時の羞恥心に配慮している。個人情報は鍵のかかるロッカーにて保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食や夕食の時間は概ね決まっているが、起床や朝食の時間は入居者の日頃の生活リズムを壊さないように自由に行っている。散歩や入浴なども、できるだけ入居者の希望に添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は関連施設で調理されているが、盛り付けや後片付けは入居者も手伝っている。おやつや味噌汁、総菜作りは週に1~2回入居者と共に行っている。食器は収納場所の都合で、茶碗と湯のみ以外は関連施設から毎回食事と共に運ばれる樹脂製のものを使用している。		食事作りは入居者の五感を刺激する格好の支援方法であり、ケアの一環として食事作りの回数を増やすことが望ましい。また、食器についても見た目や手触りを大切にしたい。収納場所を工夫し、事業所でも用意することを望む。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	少なくとも2日に1回は入浴できるように支援している。前回の外部評価の後、入浴の時間帯を見直し、それまで午前中に行っていた入浴を、入居者の希望に沿って夜間の入浴に切り替えたところ熟睡できるようになった。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を重視し、花づくりや野菜作りなど本人が持てる能力を生かし、楽しみが持てる支援がなされている。長年介護職をしていた入居者が食事介助を手伝うなど、一人ひとりがその持てる能力を活かせるような支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に合わせてドライブや散歩、スーパーでの買い物、外食を行っているが、全員で行うことが多く、入居者一人ひとりに合わせた対応はあまり行われていない。		買い物や散歩など一人ひとりの希望に合わせて、1対1や少人数での外出にも対応できる取り組みが望まれる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、ホームの玄関には鍵は掛けられていないため、自由に外出できる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間も想定した避難訓練を職員で年に2回行っている。備蓄は保管場所がないためホームにはないが、すぐ近くの関連法人の施設にはグループホーム入居者の量を含めて備えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は記録し、職員全員で把握できるようにしている。特に水分量は食事以外で500ml以上が摂取できるように努めている。栄養面の管理が必要な入居者には管理栄養士がチェックを行っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から続くダイニングは明るく、所々に季節の花を飾っており、ゆったりとくつろげる空間になっている。ダイニングから続く和室には掘りごたつが設けられ、気の合った者同士で食事や談話ができるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやクローゼットなど家具類はホームで用意している。居室には時計や人形、本人が気に入った写真などなじみの物を持ち込み、本人が居心地良く暮らせるようにしている。		